

第2回検討会議の主な意見・指摘事項

資料1

主な意見・指摘事項	対応(案)
<p>① 固定式の防波堤の3案があったが、高知市には洪水の問題もあるので固定式防波堤で狭めると、逆に湾内から水が出にくくなるのではないかとと思われるため、浦戸湾の湾内環境への検討を今後深めて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 洪水シミュレーション等により、各対策案による河川への影響について確認・検証を進めるとともに、固定式防波堤の配置ならびに構造等を含め検討していく方針です。 ➤ また、洪水シミュレーション等では、「H26年8月豪雨」災害をもたらした台風12号、11号時の雨量を検証のうえ、検討を実施していく予定です。
<p>② 固定式防波堤案では、第3ラインが着実に対策できるかというのがかなり大きな影響を与える。第2ラインもそうであるが、津波の前に起こる地盤災害への対策を実施することが極めて重要であると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ご指摘のとおり、三重防護による防災、減災対策であり、第1ライン、第2ラインだけでなく、第3ラインも含めた対策が重要であるとの認識です。 ➤ 第2及び第3ラインの対策については、液状化の度合いや必要な嵩上げ高さを検討し、各施設箇所に応じた堤体補強や地盤改良などについて、検討を進める予定です。
<p>③ 第3ラインまで含めてかなり広い範囲で整備することになるので、できるだけ早期かつ着実に整備が進捗するように優先順位を早めに決定して、それに適した工法を選定して整備することが必要となると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今後、インフラや重要施設の集積地域、防災拠点・機能など地域の重要度を考慮した、効果的、効率的な整備手順について検討を進めていく予定です。
<p>④ これだけの大規模な整備になれば、どうしても時間を要すると考える。その整備の順番というのも非常に重要になってくる。減災効果の高い整備手順といったことも検討をお願いしたい。</p>	
<p>⑤ 東日本大震災の教訓から、ハード整備により、ある程度の対策を取られているところは、やはり復旧も早い。また、浸水後における早期の排水が着実に行えるとといった副次的な効果もある。着実に一歩ずつ整備を進めていく事が重要であるとともに、減災効果というのは、ハードだけでなく、訓練、教育等も含めソフト対策とセットで取り組む事が非常に重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ご指摘のとおり、着実なハード整備は勿論、ソフト対策を融合した減災対策の取り組みが重要であるとの認識です。 ➤ これまで、国、県、市が連携した防災訓練をはじめ、地域住民への防災意識向上のための講習会開催などの防災教育に取り組んでおり、今後も継続したソフト対策に努めていく所存です。
<p>⑥ 河川への影響のほか、浦戸湾全体の中でも孕地区の南側への影響検討、水質を含めた環境の変化について検討してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 浦戸湾内における潮流、水質の変化についても、シミュレーションにより各対策案による影響を検討する予定です。